総務省・多文化共生の推進に関する研究会

外国人集住地域における 防災の取り組みと課題

外国人を災害弱者にしないために

群馬県大泉町国際協働課

加藤 博惠





面積

17.93km

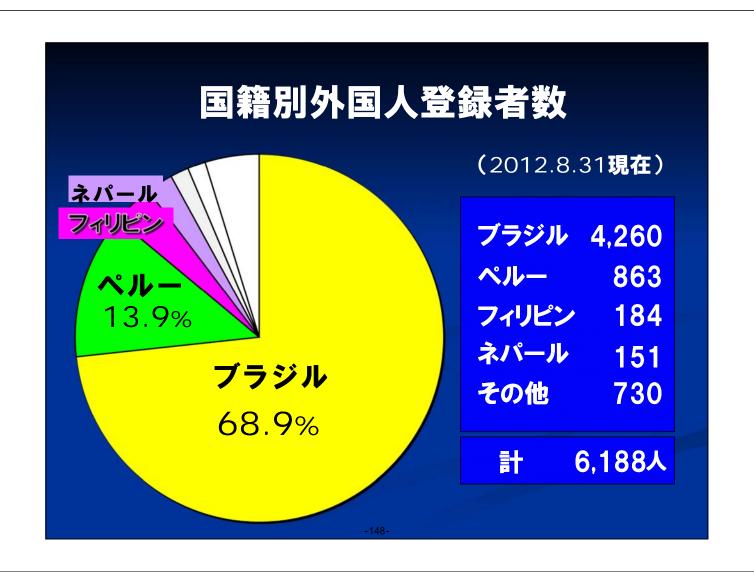
東西 4.9 km 南北 6.3 km

大泉町外国人の人数と割合

(2012.8.31)

総人口	うち外国人	比率
40,934,	6,160 _A	15.1%

全48か国

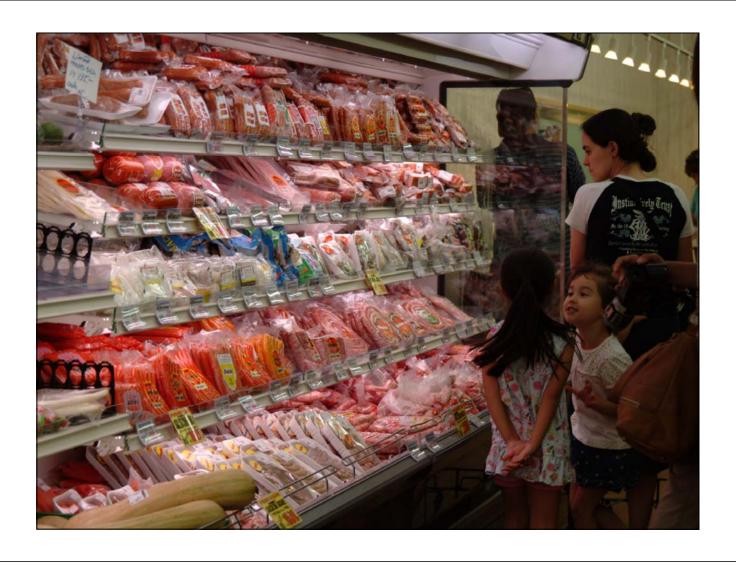


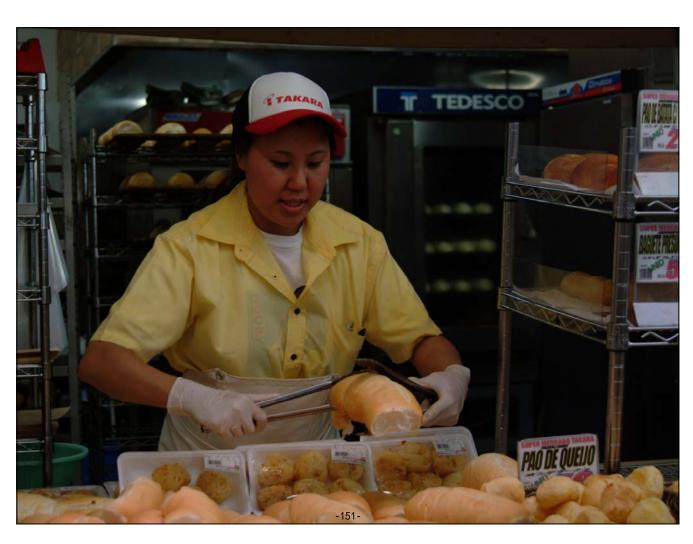








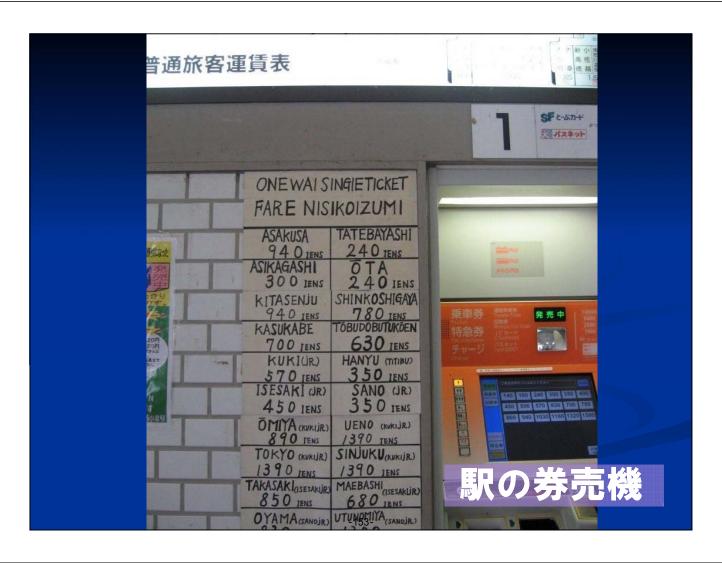
















生活者として共に生活していくための3つの課題

伝える

必要な情報を どう伝えるか?



どうしたら顔の見える関係を

葉けるか?

助け合う

万が一のとき お互い、どう助け合えるか?

















いつかは帰る「お客様」



共に地域に住む「住民」

正しい情報を正しく伝える















3月11日

停電、度重なる大きな余震、コンビニも閉店町内のブラジル人学校やスーパーなどを巡回町内に2か所の「避難所」を設置広報車による2か国語のPR

3月12日

地震関連の情報提供開始





災害情報を提供する際の課題



出どころは確か?

何を使って提供するか?

優先順位・タイミングは?

誰に向けた情報か?

翻訳の精度は?

出どころは確か? 信頼性のある情報のみを提供

何を使って提供するか?

ホームページ、チラシ、ラジオ、メール、広報車、電話

優先順位・タイミングは?

翻訳の精度は?

外国人集住都市会議で翻訳協力

誰に向けた情報か?

全国的な情報や被災地情報

リンク

▶多言語支援センタ・

住民として必要な生活情報

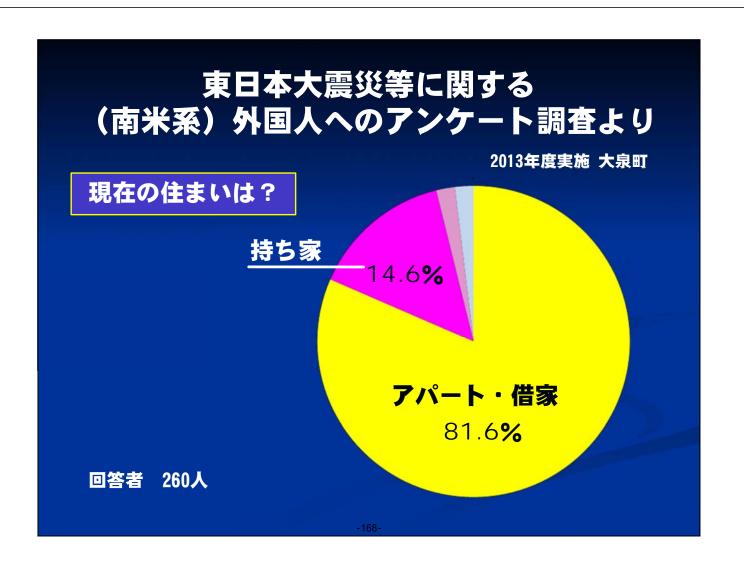
計画停電、節電、水の安全性 屋根瓦の処理、公共バス運行状況 チェーンメール注意

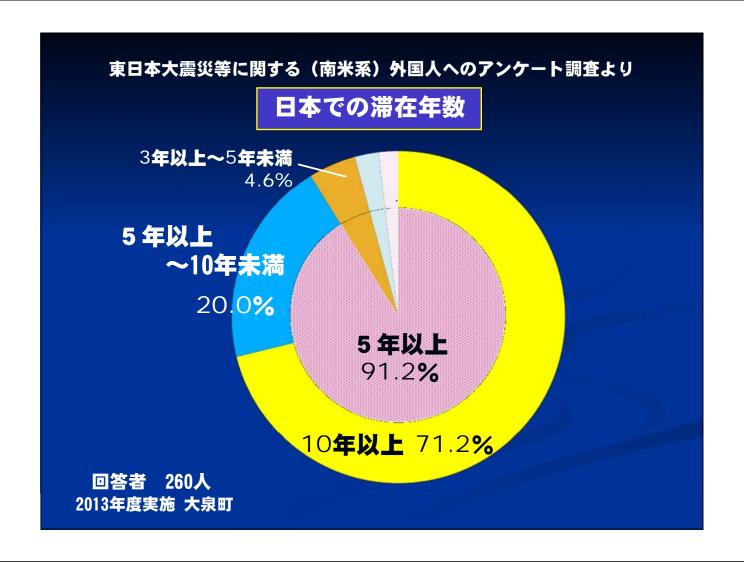
被災地や被災者支援に関する情報

救援物資、義援金、ボランティア

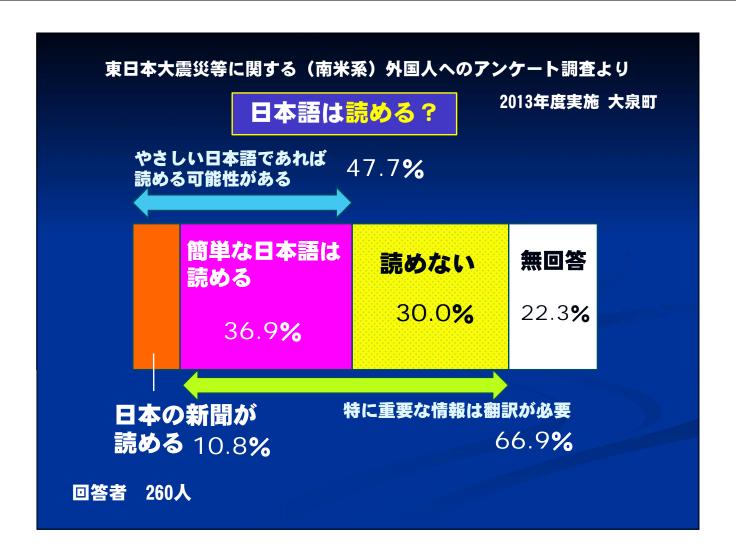
今後の課題を整理するために

アンケート調査を実施































災害弱者ではなく 支援側になるために…



炊き出し訓練





災害想定訓練

Mission

大地震直後の テーブルや食器類が散乱した レストラン室内から 全員が安全な場所に避難すべし

ただし!

同じ室内には

ケガ、パニック、意識不明、大出血 妊婦、乳児を抱えた母親 目や耳に障がいを持つ人など

何らかの支援が必要な人がいます







看護学科の大学生が ケガの応急措置方法を説明





外国人集都市会議 29都市でアンケート調査実施

| 実施時期:2012**年**7**月**

■対象者:1年以上日本に滞在

している南米系外国人

■回答者数: 1,030人

結果速報

- ■日本での滞在年数 「10年以上」が66.5%
- ■日本での住まい 「持ち家」が16.3%
- ■18歳未満の子どものうち 「日本生まれ」が68.0%

結果速報

- ■日本での滞在年数 「10年以上」が66.5%
- ■日本での住まい 「持ち家」が16.3%
- ■18歳未満の子どものうち 「日本生まれ」が68.0%

結果速報

- ■日本語での会話
 - 「通訳が必要」が65.6%
- ■日本語は読める?

「簡単な漢字なら…」が22.1% 「ひらがな・カタカナ」が49.4%

結果速報

- 東日本大震災直後の情報は 「日本のテレビから」が第1位 757人 (73.5%)
- ■現在、地震や台風の情報は 「日本のテレビから」が第1位 795人 (77.2%

結果速報

- 被災地や被災者のために「何らかの支援をした人」が70.3%
- 今後、大きな災害があった時に 「機会があれば、 ボランティアがしたい」が83.1%

